

## **[成果情報名]高冷地における年内施肥マルチによるレタスの4月収穫技術**

**[要約]**富士北麓地域において普及が図られつつある同一マルチ年3作栽培をさらに改良し農閑期および畑が凍結する前の11～12月にマルチを張り2月にトンネル被覆することでレタスの2月下旬定植4月下旬収穫が可能となる。

**[担当]**山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・岳麓試験地 渡辺 淳

**[分類]**技術・普及

---

### **[背景・ねらい]**

圃場が狭く無霜期間が短い富士北麓地域富士北麓地域のスイートコーンを基幹とした従来の作型に加え、新たな作目導入の可能性を検討し、この地域における効率的・低コストによる生産品目の拡大および出荷期間の拡大を図るため平成23～25年の3年間で3作のモデル作型を開発し現地に普及しつつある。

ここでは、同一マルチ年3作栽培の作付けを前進化させることで、より価格の安定したレタスの端境期出荷を目指す。

### **[成果の内容・特徴]**

1. 前年のうちにマルチを張ることで、2月下旬から3月上旬にレタスを定植すれば4月下旬から5月上旬にかけて収穫が可能となる(表1)。
2. レタスを1月中旬から下旬に200穴のセルトレイに播種し温室内で育苗をする。
3. 穴無しマルチを使用し、11月から12月にマルチ内施肥する。トンネル被覆は定植前の2月上中旬に設置する(図1)。
4. 冬期に圃場準備、マルチ張り等を行う事で、春の天候不順による作業遅れのおよび作業競合が起こらない。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 適応範囲：富士北麓地域の標高500～950m
2. 供試品種はレタス「鴨川」を使用した。
3. 施肥管理については、H25年度成果情報「富士北麓地域における野菜の新作型(3作1回施肥法)」を参照する。
4. 3作栽培を行うには育苗を行わなければならないため、計画的に播種時期、定植時期を決めておく。

### **[期待される効果]**

1. 富士北麓地域において4月～5月の端境期における春レタスの産地化が図られる。
2. 生産拡大による産地強化が図られ、「富士山やさい」のブランド強化につながる。

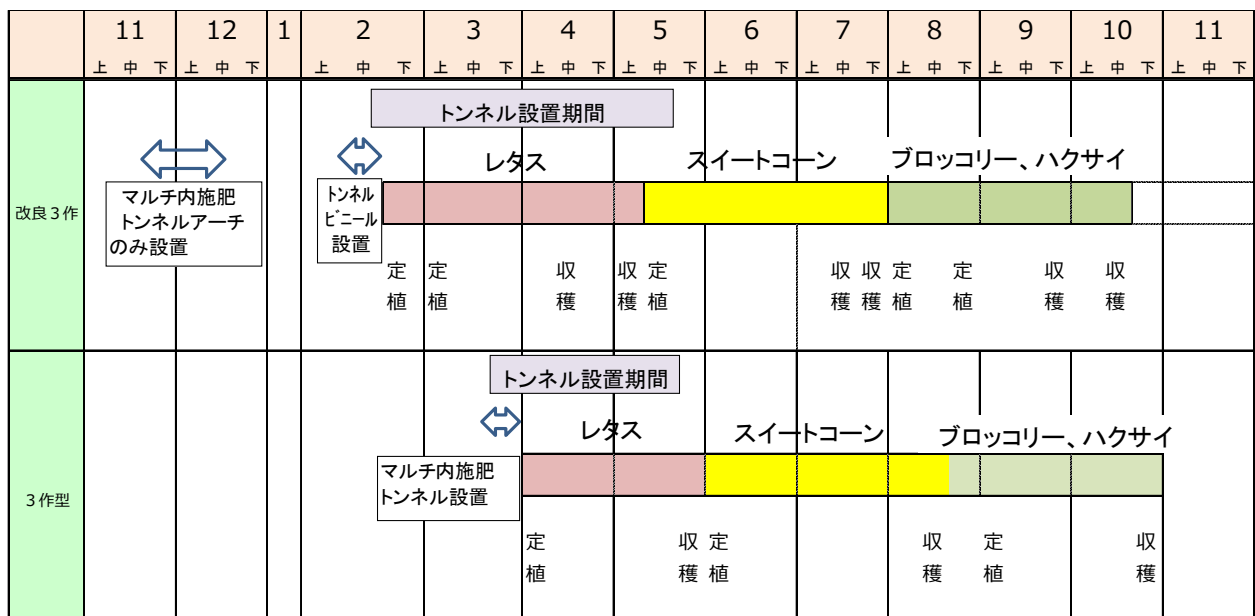
[具体的データ]

表1 前年マルチ播栽培における春レタスの収穫期と品質

播種	定植	全重	規格重	長径	短径	球高	収穫期間	
							g/個	g/個
H27.1.19	H27.3.2	838.2	716.0	15.6	18.8	14.0	4月28日	5月7日
H28.1.27	H28.2.29	896.3	642.2	18.8	16.6	15.6	4月27日	5月6日

品種 鴨川

図1 改良3作のモデル作型の作型図および改良点



3作の問題点	3月に入り農作業が忙しくなる上、天候が安定せずしない為作業する日が限られる。
改良3作の改善点	作業が農閑期に出来る。1作目の定植が2月まで前進化する。



写真1 前年12月マルチ張り



翌年2月下旬定植直後



定植苗の様子

[その他]

研究課題名：高標高地におけるスイートコーンと葉物野菜の組み合わせによる新規作型の確立

予算区分：県単

研究期間：2011～2013年度（応用試験・2016年）

研究担当者：渡辺淳、志村貴大